

日本のウイスキー

日本のウイスキーと言えばサントリー、ニッカ、キリンシーグラムなどがあるのですが最近のウイスキーは総じてレベルが上がっているような感じがします。この章では一つずつ評価していこうと思います。国産ウイスキーは総じてスモーキー・フレーバー臭が少なく日本人向きです。

1) サントリー トリス・クラシック

昔はトリスウイスキーと言えば、その飲み心地は喉をさすような刺^{とげ}があり、酔うためだけのウイスキーであったように思えます。もともと私の知っている限りにおいて二級ウイスキーだったと思います。これはモルトが約10%にブレンド用アルコールを加えており、まろやかさのかけらもなかったように思います。

それが1989年酒税法改正でウイスキーの等級廃止制度で、ブレンド用アルコールではなく、グレーンウイスキーを加えるようになって、完全なブレンドウイスキーとなったようです。私はもともと家飲みはほとんどしなかったせいもあり、暫くはトリスを飲みませんでした。

ところがこの度、一番安いウイスキーから味見してみようとしたらトリス・クラシックしか売ってなかったのでこれを社飲みすることにしたのです。アルコール度数37度、今までは廉価版のウイスキーは40度と決まっていたのに……。

まずはストレート。不味く^{まず}はない。続いてロック、これもいける。スコッチの安い酒よりはるかにいい。そしてハイボール。これもいける。上級のウイスキーのように芳醇な香りにやや難点があるが気取らない家飲みには十分です。



2) ニッカ ハイニッカ

現在のハイニッカはニッカウキスキーが製造しアサヒビールが販売しています。

元々、このハイニッカも1989年の酒税法改正まではブレンド用アルコールを加えた2級ウイスキーでしたがモルトとニッカ独自のカフェ式連続蒸留器で作られたカフェグレーンを加えたブレンド・ウイスキーになりました。アルコール度数は39度。

味も香りもトリスより上ではないでしょうか。家飲みでこの値段で飲めるのは幸せだと思います。水割やハイボールにはもってこいです。あまりお勧めではないですがコーク・ハイにすればいくらでも飲めます。

